

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	207人	国語B	207人
② 数学A	207人	数学B	207人
③ 理科	207人		

5 留意事項

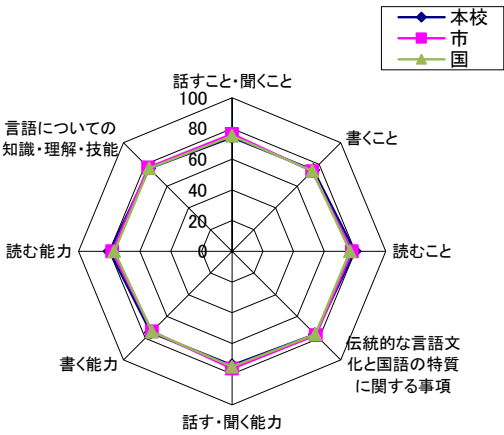
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

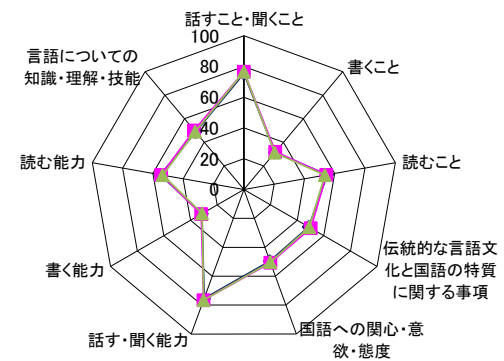
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.2	76.4	75.2
	書くこと	74.9	73.7	73.9
	読むこと	79.8	78.0	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.3	77.2	76.5
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	74.2	76.4	75.2
	書く能力	74.9	73.7	73.9
	読む能力	79.8	78.0	76.7
	言語についての知識・理解・技能	76.3	77.2	76.5



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.5	76.5	76.6
	書くこと	31.6	31.9	31.3
	読むこと	55.0	54.5	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	48.8	50.2	49.2
観点	国語への関心・意欲・態度	49.6	50.6	50.3
	話す・聞く能力	75.5	76.5	76.6
	書く能力	31.6	31.9	31.3
	読む能力	55.0	54.5	53.5
	言語についての知識・理解・技能	48.8	50.2	49.2



★指導の工夫と改善

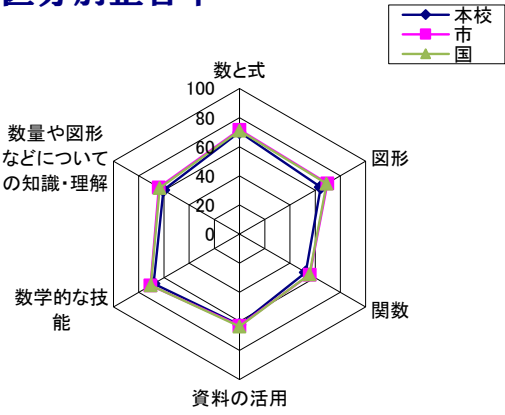
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「スピーチの感想をとらえる」「メモの取り方について聞き取る」という問題は正答率が市・国の平均をやや上回っている。 ●「話し合いの際の確認事項」について要点を聞き取る問題では正答率が市・国の平均を3%近く、大きく下回っている。	・今後も話し手の発言の要点を的確に聞き取る課題に取り組ませたい。 ・自分がスピーチを行う際、順序やポイントを絞った構成を工夫するようアドバイスをしていきたい。
書くこと	○国語Aでは「目的に応じて文章を読み、内容を整理する」という問題では正答率が県の平均を2ポイント上回っている。 ●国語Bでは全問題を通して正答率が市・国の平均をやや下回っている。	・整理し、まとめる力をつけさせるとともに、自分の考えを文章にする練習を多く行わせたい。単元末に意見文や感想文を書かせる時間を設けたい。
読むこと	○国語A・Bともに、正答率が市・国の平均を上回っている。とくに「文脈の中の語句の意味を理解する」という問題では、正答率90.8%と高い。	・小説の情景描写、人物描写に注目させ、描写から想像する力をつけさせる。 ・評論文の読解では、「段落」が全体に対して果たしている役割について考えさせる時間を設け、構成を知ったうえで読みとく力をつけさせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「歴史的仮名遣い」に関する問題では、正答率が国の平均を4ポイントほど上回っている。 ●国語A・Bともに市・国の平均を大きく下回っている。とくに、「接続詞」を中心とした文法の理解不足が目立つ。	・漢字小テストに加えて、文法を確認する小テストを授業中に実施し、繰り返し復習し、問題演習に取り組む時間を設けたい。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

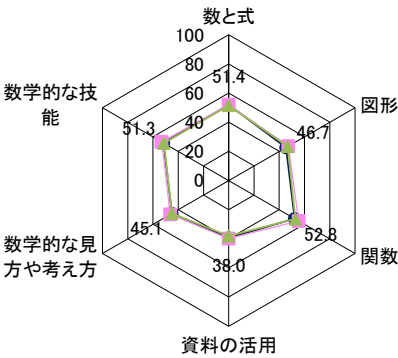
★本年度の国、市と本校の状況
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	70.1	71.7	71.1
	図形	64.4	69.7	69.1
	関数	52.6	55.8	55.5
	資料の活用	62.4	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	68.2	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	60.4	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	51.9	52.0	51.4
	図形	45.4	47.3	46.7
	関数	52.2	55.4	52.8
	資料の活用	39.4	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	45.1	46.3	45.1
	数学的な技能	51.7	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

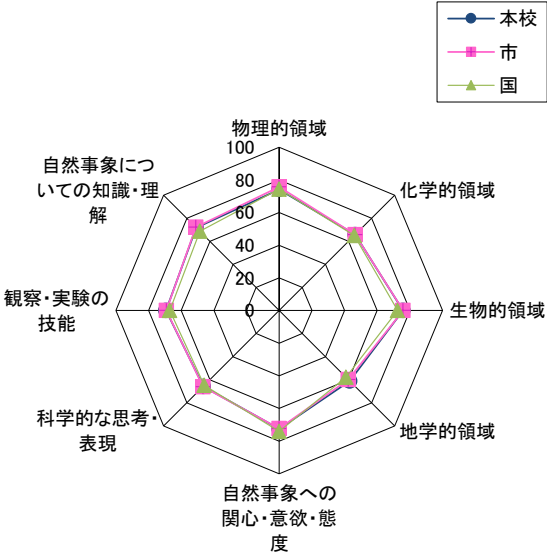
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○単項式の除法や比例式を解く問題では正答率が80%を超えている。 ●数学Aについては、全国、市ともに下回っている。一方、数学Bについては、全国を上回り、市の正答率とほぼ同等になっている。	・計算の反復演習や既習事項の確認を行いながら計算力の確実な定着を図りたい。
図形	○問題形式が記述式の場合は全国、県を上回っている。見取図や投影図から空間図形を読み取る問題では正答率が80%を上回っている。 ●数学Aでは全国、市を5ポイント前後、数学Bでは全国、市を2ポイント前後下回っている。特に、問題形式が選択式、短答式の場合は、全国、県よりも下回ることが多い。	・既習事項の語句や図形の性質の確認を行いながら、図形の基本的な知識の定着を図りたい。
関数	○反比例のグラフと表の関連付けの問題や事象を理想化・単純化することで表されたグラフを実証に則して解釈する問題の正答率は全国、市を上回っている。 ●数学A、Bともに全国、市を下回っている。特に、変域や増加量を求める問題では正答率が大きく下回っている。	・それぞれの関数の性質や特徴の確認を行いながら、関数の基本的な知識を定着させるとともに、式の求め方やグラフの書き方などを理解させたい。
資料の活用	○数学Aにおいては、ほぼ全国、市と同じ正答率であるが、昨年度よりは正答率が上回っている。 ●数学Bにおいては、ほぼ全国、市と同じ正答率であるが、昨年度と比較すると約10ポイント下回っている。	・既習事項の語句や意味、値の求め方などの確認を行いながら、資料の活用の基本的な知識の定着を図りたい。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	74.1	75.7	74.4
	化学的領域	65.8	65.8	65.0
	生物的領域	75.8	75.9	72.5
	地学的領域	61.0	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	72.5	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	65.7	66.0	64.9
	観察・実験の技能	69.3	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	71.8	72.1	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	○「初期微動継続時間の長さや震源からの距離の知識や音の速さに関する知識を活用できる」では県の平均より1.5ポイント、国の平均より1.3ポイント上回っていた。 ●「豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘できる」では県の平均より2.8ポイント、国の平均より2.5ポイント下回っていた。	・電流のはたらきについてイメージをもたせてから、電力の定義や単位について説明する。
化学的領域	○「濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できる」では県の平均より4.2ポイント、国の平均より3.7ポイント上回っていた。 ●「アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付いている」では県の平均より2.2ポイント、国の平均より3.3ポイント下回っていた。	・周期表を見ながら、原子が記号で表されていることを説明し、反復練習させる。 ・分子モデルが何を表しているか、再確認させる。
生物的領域	○「神経系の働きについての知識を身に付いている」では県の平均より11.9ポイント、国の平均より13.3ポイント上回っていた。 ●「植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識が身に付いている」では県の平均より2.6ポイント、国の平均より1.0ポイント下回っていた。	・図や写真を用いて、葉のつくりを説明する。 ・根からの水や養分の移動に関連づけて、蒸散のはたらきについて説明する。
地学的領域	○「太平洋高気圧(小笠原気団)の特徴についての知識を身に付いている」では県の平均より5.2ポイント、国の平均より8.1ポイント上回っていた。	・身近な気象に進んでかわり、空気中の水の凝結に関する観察・実験や気象観測、天気図や雲画像を活用した分析・解釈などを通して、天気変化のしくみと規則性を理解させる。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、良いところがあると思いますか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は85.0%で、県や全国の割合より上回っている。今後も、褒めて伸ばす指導を継続し、自己肯定感を高める工夫をしていきたい。

○「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は83.1%で、県や全国の割合より上回っている。今後も、学活や総合的な学習の時間を中心に、進路計画やキャリア教育等の充実を図っていきたい。

○「朝食を毎日食べていますか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は95.6%で、県や全国の割合より上回っている。早寝早起きなどの規則正しい生活習慣に心がけさせ、全生徒が朝食を食べて登校できるようにさせたい。また、保護者会や各種たより等を通じて、朝食の大切さを伝えていきたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は56.5%で、県の割合より下回っている。定期テスト前などに、テストの勉強計画等を作らせたりしているが、十分とは言えないようだ。普段の生活の家庭学習等でも、計画性を持って取り組めるよう指導していきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に、「1時間以上」と回答した生徒は65.2%で、県や全国の割合よりも下回っている。各教科の課題や宿題の出し方について工夫するとともに、保護者会の機会をとらえて、家庭学習の定着を図りたい。特に、受験生であることを意識させ、自分の進路決定に向けた学力向上と実力の安定を図らせたい。

○「学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問に、「全くしない」と回答した生徒は19.8%で、県や全国の割合よりすくない。学校では、毎朝「朝の読書」の時間を設けて、読書の習慣化を図っている。保護者への啓発活動を積極的に行い、学校や家庭において積極的に読書ができるような工夫をしていきたい。

○「放課後に何をして過ごすことが多いですか」の問いに、「家族と過ごしている」と回答した生徒の割合が61.4%で、県や全国の割合より上回っている。今後、道徳を中心に、深い愛情をもって育ててくれた家族に対して敬愛の念を深めるとともに、家族の一員としての自覚をもたせるような心を育てていきたい。

○「週末に何をして過ごすことが多いですか」の問いに、「学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」と回答した生徒の割合が30.4%で、県や全国の割合より上回っている。

●「1、2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は69.9%で、県の割合75.9%より下回っている。また、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は44.9%で、県の割合48.4%より下回っている。今後は、美化活動やあいさつ運動など、地域住民、地域団体との協働的な取り組みを通して、生徒の主体性・社会性を高めていきたい。

●「数学の勉強は好きですか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は42.5%で、県や全国の割合より下回っている。一方、「数学の勉強は大切だと思いますか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は58.5%で、県や全国の割合より上回っている。「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の質問に、「当てはまる」と回答した生徒の割合は49.8%で、県や全国の割合より上回っている。数学の勉強は大切だ、将来役に立つと思いつつも、好きではない生徒が多い。基礎基本の定着を図り、「できた」という達成感を味わいながら進められる授業の工夫を考えていきたい。

○「理科の勉強は好きですか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は73.9%で、県や全国の割合より上回っている。また、「理科の授業の内容はよく分かりますか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は82.6%で、県や全国の割合より下回っている。今後も、生徒が「何だろう」「おもしろい」と興味関心が高まる理科の授業になるように工夫していきたい。

●「理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は34.3%で、県や全国の割合より下回っている。今後は、ホワイトボードとライティングシート等を効果的に活用し、伝える能力を身に付けさせ、その楽しさを感じ取らせることを実践していきたい。

宇都宮市立宮の原中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業のねらいの明確化	・ねらい提示と振り返りを行う。	・学習内容が明確で理解し易くなっている。
・学業指導の充実	・チャイム前着席や態度の指導を行う。	・落ち着いて学習し、進路希望の実現に向けて前向きに取り組む生徒が増えてきた。
・家庭学習の習慣化	・課題の提出を徹底させる。	・課題等は大半の生徒が提出できているが、期限までに提出できない生徒がまだ見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・家庭学習の計画的な取組や、学習時間の長さが今後の課題	・各教科の課題の与え方や家庭学習の定着化の工夫	・各自の目標を明確にし、それを達成させるための具体的な取組を計画する機会を設定し、家庭学習にも生かせるようにする。